

# 奈良市総合計画審議会（第4回） 会議録

1 日時 平成22年5月27日（木） 午後2時～午後4時

2 場所 奈良市役所 6階 正庁

## 3 出席者

【委員】 秋吉美由紀委員、伊藤忠通委員、宇野伸宏委員、緒方賢史委員、影山清委員、木村好成委員、小山淳二委員、杉江雅彦委員、高橋敏朗委員、西山要一委員、根田克彦委員、野林厚志委員、舟久保敏委員、武蔵勝宏委員、安村克己委員、柳澤保徳委員、山田純二委員

（欠席 石川路子委員、井原縁委員、坂本信幸委員、杵本育生委員、高橋裕子委員、田辺征夫委員、筒井寛昭委員、西口廣宗委員、宮野道雄委員、山口清和委員）

【市職員】 教育長、水道局長、法令遵守監察監兼危機管理監、消防局副局長（消防局長代理）、市長公室理事、企画部長、総務部長、市民生活部長、市民活動部長、保健福祉部次長（保健福祉部長代理）、保健福祉部理事、保健総務課長（保健所長代理）、環境清美部参事（環境清美部長代理）、観光戦略室長（観光経済部長代理）、都市整備部長、会計課長（会計管理者代理）、業務部長、技術部長、教育総務部長、学校教育部長、企画部次長、事務局（企画政策課職員）

（欠席 副市長、市長公室長、建設部長）

## 4 会議事項

- 1 前回の質問に対する回答
- 2 審議会部会（案）について
- 3 奈良市第4次総合計画・基本構想（案）について

※全て公開で審議。（傍聴人1人）

## 5 配布資料

- 奈良市第4次総合計画基本構想（案）中間報告
- 資料1 基本構想案 中間報告対比表
- 資料2 都市の将来像

- 資料3 奈良市第4次総合計画審議会 部会設置（案）
- 資料4 中核市について
- 奈良市総合計画審議会小委員会（第3回）会議録
- 奈良市総合計画審議会小委員会（第4回）会議録
- 参考資料
  - ・ 奈良市総合計画審議会 委員名簿（平成22年5月1日現在）

## 6 議事の要旨

- 委員の交代について、事務局が報告。
  - ・ 奈良県農業協同組合の人事異動により、谷口正記委員と交代で木村好成氏が委員に委嘱されたことを報告。
  - ・ 社会福祉法人 東大寺福祉事業団の人事異動により、橋村公英委員と交代で筒井寛昭氏が委員に委嘱されたことを報告。

### （1）前回の質問に対する回答

- 前回（第3回会議）に秋吉委員から質問があった「中核市」について、事務局が説明。

資料4 →民生行政、保健衛生、都市計画等、環境保全行政、文教行政、財政上の権限・その他の分野において奈良県から奈良市に移譲された事務を紹介。

県から許認可の権限が多く移譲されていることを根拠に、自律性の必要性を指摘。

- 委員の質問・意見は次のとおり。

秋吉委員⇒ 中核市となった奈良市に必要な心構えや、奈良県と奈良市の関係が気になり質問した。質問に答えていただきありがたい。

### （2）審議会部会（案）について

- 奈良市第4次総合計画審議会 部会設置（案）について、事務局が説明。  
奈良市第4次総合計画審議会 部会設置（案）は資料3のとおり。この部会は、「奈良市第4次総合計画基本構想（案）中間報告」（13頁）にある施策の大綱（基本計画における章立て）に沿って設置し、それぞれの内容についてご審議いただく予定である。

第1部会：基本構想の推進

第2部会：生活環境、都市基盤、経済

### 第3部会：市民生活、教育・歴史・文化、保健福祉

○ 委員の質問・意見は次のとおり。

杉江会長☞ 今回、各委員にはご希望分野を聞くが、必ずしも応えられないことがあることをご了承いただきたい。

各委員の専門分野を中心に、現在の関心や研究テーマなどを聞き、部会間の人数バランスなども考慮して選定する。

#### (3) 奈良市第4次総合計画・基本構想（案）について

● 基本構想案 中間報告対比表（資料1）について、事務局が説明。

基本構想案の変更点は、基本構想案 中間報告対比表（資料1）のとおり。

● 小委員会の経過について、伊藤副会長（小委員会委員長）が報告。

- ・事務局から話があったとおり、一番大きな変化として、全体の流れを良くするために構成を見直した。
- ・まず、基本構想では、基本的な考え方を示すことになるだろうという考えから、第1章では『3 基本構想策定の背景』を追記し、内容を充実させた。
- ・第2章は理念が大事であるとの考えから、理念に基づく将来像を示し、将来像を実現するための基本方向を示した。また、具体的に指標を示し、将来像に近づけていく目安としている。
- ・第3章では、基本方向に基づく施策の大綱を示している。
- ・第3回審議会で指摘のあった、基本方向と施策の大綱の整合を取るため、施策の大綱を「基本方向」と「基本計画における章立て」のマトリクスで示している。
- ・施策の大綱のうち、「基本構想の推進」に関しては、全基本方向に関わることであるため、別途章を設けている。
- ・将来像は1つに決まらず、本会で検討いただくように3つの案を提示（資料2）した。いずれも（理念の）3つのキーワードを盛り込み、奈良市をイメージするもので、追加した案は市民会議からの提案を参考にしている。
- ・重点戦略については、具体的なものであるべきであり、基本計画の最初の部分に盛り込むのが良いとの結論を得た。

○ 委員の質問・意見は次のとおり。

杉江会長☞ 本文を読んでいただきながら、3つ掲げられている都市の将来像を決めたい。各案は、市民会議からの提案も考慮した苦心の策と思われる。

施策の大綱はマトリクスにまとめられているが、意見はあるか。

緒方委員☞ 内容に異論はない。マトリクスの各欄に属さない内容が出てくるなど、

各論で不都合があった場合は柔軟に対応していただきたい。

伊藤副会長☞ 将来像3案について、第1、2次総合計画の将来像で「文化」という文言がある一方で、今回の第4次総合計画の3つの案では「文化」はないが、第1案では「古都」が趣旨を包含している。

杉江会長☞ 当初の基本構想の「国際文化観光都市」でも、「文化」は特別なものとして考えられた。

具体的には、当時の奈良市が、「国際文化観光都市」をほぼ慣用句のように使用していたことに配慮されたものと考えられる。

西山委員☞ 「環境」に文化環境が含まれるものと思っていた。ただ、施策の大綱では、「環境（生活環境）」は自然環境のことを意味しているようであり、文化の内容が読めない。

また、案2の「志向する」は理解するのが難しい表現のように思う。

伊藤副会長☞ 一文に色々な要素を入れると文章が長くなってしまうため、サブタイトルに「文化」を入れることも考えられる。

杉江会長☞ 具体的にはどのような表現にすることが考えられるだろうか。

高橋(敏)委員☞ 「世界遺産」にも文化は含まれている。文化を入れる場合には、それを創り出す（という市の）意志が必要と考える。

具体的には、文化的施策として研究施設等を誘致するような意図があるのであればよいが、文化的な古代遺産を生かすだけであれば、誰も知っていることなので、敢えて「文化」という文言は不要かと思う。

舟久保委員☞ 「国際観光都市」という言葉を使った案を作るのであれば、「文化」を加えて「国際文化観光都市」にした方がよいかと思う。

もし「文化」を抜くと、以前使っていた「文化」がなぜなくなったのだろう、と考える市民も出てくるのではないか。

杉江会長☞ 第二次大戦後から、奈良市が「国際文化観光都市」として生きていく宣言する意味もあって条例を策定した背景等から考えると、奈良市では「国際文化観光都市」は慣用句である。

様々意見がありそうだが、投票で1案を絞るには合意される案が必要である。

投票案を固めるにあたり意見はあるか。

武蔵委員☞ 案1は「あり」と「ある」が続いているので、「交流」のあとの「あり」を取るのが良い。

杉江会長☞ 案2はいかがか。

西山委員☞ 「志向」より「目指す」が適切である。

杉江会長☞ 案3はいかがか。

伊藤副会長☞ 案3では、理念の「協働」がないのでサブタイトルで示した。

秋吉委員☞ 案2の「国際観光都市」は「国際文化観光都市」として欲しい。

山田委員☞ 案1と案2、3の間には、「観光都市」という文言の有無という点で大き

な違いがある。だが、案1は「交流」に観光の意味が含まれるとも考えられる。  
影山委員☞ 案1については、「環境と交流と活力に満ちた暮らしのある」と並列の表現にすることも考えられる。

宇野委員☞ 暮らし目線からいうと案1が良いと思う。「暮らし」がキーワードかと思う。

案2、3については、これまでの議論で「奈良市は『観光』だけで良いのか」という問いもあり、「国際観光都市」で奈良市を表現しつくすのは難しいと思う。

舟久保委員☞ 「案1には『協働』という文言がない」との指摘があったが、将来像は姿を示すものであり、「協働」は手法に近いものであるため、必ずしも「協働」を入れる必要はないかと思う。

安村委員☞ 将来像は基本的な理念を盛り込みつつ、できるだけ短いフレーズで言い切る必要があると思う。

よって案3にサブタイトルをつけて、「持続可能な世界の古都奈良～環境、活力、協働を目指す国際文化観光都市～」としてはどうか。

野林委員☞ 案2については、姿を目指すのなら、「目指す」よりも、環境、活力、協働が「支える」という結果の状態を表現した方が、自覚的になる。

「国際文化観光都市奈良」は漢字が10個もつながって漢文のようなので、分ける方が良いのではないか。また、将来像として市民は必ずしも「観光」は望んでいないかと思う。

杉江会長☞ 「国際文化観光都市奈良」という表現を分ける方法について、意見はないか。

根田委員☞ まずは「観光」という文言を入れるかどうか決めたほうがいいのかと思う。

また、「国際観光文化都市」が奈良特有の表現とは知らなかった。この特有の表現を使うかどうかについても、まず決めてはどうか。

緒方委員☞ 「国際文化観光都市」は法律（奈良国際文化観光都市建設法）で定められたものであり、また、少なくとも京都と松江でも使用されている表現であるため、これから目指す将来像を表現するために敢えて入れる必要はないのではないか。

高橋(敏)委員☞ 「観光」という表現を忌避するのは如何かと思う。奈良市においては環境と観光は大きな資源であり、これを活用することが問われている。よって、敢えて「観光」という表現を外す必要はないかと思う。「観光」を入れておかないと（観光に関する）予算がつきにくくなる恐れがある。

伊藤副会長☞ 第2次、第3次の基本構想の将来像では「観光」は入っていないので、予算面での心配はないと思われる。

舟久保委員☞ 案2は、基本理念における3つの視点がキーワードとして書かれているため、その意味ではわかりやすい。また、「国際文化観光都市」は長いため、「世界の古都奈良」に変えてもよいのではないかと思う。

案1は、「満ちた」という言葉に「活力」が係るとすると、「環境」「交流」「活力」を並列化するのではなく、「豊かな環境と交流、活力に満ちた」という表現にした方が良いかと思う。

安村委員☞（案が多くなるので）先ほどの提案（「持続可能な世界の古都奈良～環境、活力、協働を目指す国際文化観光都市～」）は取り下げる。

杉江会長☞ 次の3つの案で投票を行う。

案1 豊かな環境と交流、活力に満ちた暮らしのある世界の古都奈良

案2 環境、活力が支える国際文化観光都市奈良

案3 持続可能な国際文化観光都市奈良 ～協働によるまちづくり～

→[事務局] 投票結果は、案1が10票、案2が6票、案3が0票である。

杉江会長☞ 第1案に決定する。

杉江会長☞ その他本文に関する意見はないか。

高橋(敏)委員☞ 小委員会で議論してきたことのうち、基本構想(案)の5ページの「1 基本理念」と、6ページの「まちづくりを進める3つの視点」にある「②「活力」の視点」と「③「協働」の視点」にうまく表現できていない点がある。

まず、「1 基本理念」において、「市民と市が一体となりまちを創りあげていく「活力」という表現は、「活力」ではなく「協働」に符合するため、「人々が集い、活発に交流し、にぎわいを創出する「活力」と修正した方が良いのではないか。「人々が集う」には、観光、会議や、市職員と市民・NPO・地域に立地する企業らが活発な議論することの意味が含まれる。「にぎわいを創出する」は、商業施設等のにぎわいが必要なため、敢えて入れさせていただいている。

一方で、「協働」については、「活力」の表現を活かすのであれば、「市民と市が一体となり「わがまちづくり」ができるような社会を築く「協働」という表現が良いのではないか。

次に、以上のような基本理念の考え方を受けて、「②「活力」の視点」では、「また、行政や経済が一体となって地域産業の振興や地域資源の連携、融合による雇用の場や機会を計画的に創造して、市の活力の向上に努める必要があります」というような記述はあるが、活力についてうまく表現できていないと思う。交流の場をつくるだけではなくて、にぎわいの創出につなげていくような活力や、地域振興のため住民が自発的に集まるような交流の場をつくる必要がある。

また、「③「協働」の視点」について言うと、協働で重要なことは「協働の場をどこまで広げていくか」ということである。単にコミュニティで協働するなど表現するのではなく、もっと（協働の場を）広げる必要がある。例えば、一口で都市計画づくりと言っても、都市の全体計画がいきなり成立するわけではない。地域ごとに、地域主体で独自のまちづくり計画を立てていただき、それらを行政

と市民が協働して全体計画として組み立てていくというプロセスが求められるのではないかと。さらに、それら全体計画の一部については、「市民や NPO、企業等が計画の実行段階にまで関わっていくことで、行政と市民の真の行政が実現していく」というようなことを記述する必要があるのではないかと。今まで経験したことがなかったリスクを抱えながら実践していくことになるため、ある意味でトライアル&エラーを重ねていく形になる。

そこまで書くと具体的すぎるというのであれば、7 ページの一番最後の「まちの経営」に触れている部分で、「まちの経営を協働により実現していくということになります」というような文言は最低限必要かと思う。

7 ページの後半部分には、協働に関する内容が書かれていない。具体的には第 1、第 2 パラグラフでしか協働について書かれていないのではないかと。第 2 パラグラフでは、「支援していく体制」という表現が上から目線であり、行政が支援していくというイメージが強すぎるのではないかと。思う。

以上を整理すると、協働としては、コミュニティづくりからはじめて、地域の利便性いわゆるコンパクトシティに関する計画づくり、地域ブランド創出計画等まで含めて、協働するのもしないのか、検討する必要がある。最終的には地域ごとのインフラ計画を調整する必要があるため、それを議会に任せるのか、そこにも市民が参加するのか、議会の権限にも関わることにもなるので、匂いはするが抽象的に書く必要があるため難しいとは思う。

なお、3 ページの「5. 行政運営・まちづくりにおける新しいシステムの構築」において、「社会のグローバル化」という表現が気になる。地域に色々な国籍の人々が地域に住むようになることや、観光から海外の人々がやってくることを意味するのかもしれないが、一般的な表現ではないので、再考の必要があるかと思う。

さらに、10 ページの将来人口目標のうち、年少人口の 3.5 万人については、中位推計そのままの数値である。少子高齢化に対応する施策を考えて、3.6 万人ぐらいに設定できないものかと思う。

→[事務局] 人口フレームについては、中位推計に、生産年齢人口の確保（流入・転出防止）による年少人口の上乗せを見込んだものである。

柳沢委員☞ 2 ページの少子高齢化に関する記述において、「少子」に関する課題は理解できるが、「高齢化」に関する記述がないかと思う。

これから高齢者は増えていくことになるため、高齢化に関するコメントが何かあると良いかと思う。

宇野委員☞ 4 ページの「5. 行政運営・まちづくりにおける新しいシステムの構築」の【課題】において、「ますます重要となってきました」という表現が、第 3 者的な表現になっている。他の項目は「必要があります」などの表現であるため、より強めな表現にした方が、統一が取れてよいかと思う。

杉江会長☞ 今後の予定も詰まっているので、今日いただいた意見をとりまとめ、中間答申とする作業は会長に一任いただきたい。

引き続き、基本計画を7、8月に集中的に審議することになる。会議が成立することが大切なので、各委員にはご出席をよろしく願います。

なお、小委員会は7月8日午前10時から開催する。

以上